

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3210

『時代は変わる。大学が変わる。』

洛友会も変わらねば。』

洛友会副会長 池上 文夫（昭22年卒）

新年おめでとうございます。洛友会員の皆様、今年もお元気で活躍をお祈りします。今年の世界にとっても多事多難と覚悟が必要な年かと思われませんが、恐らくは洛友会にとっても重要な年になりそうな気がします。

1 まえがき

洛友会は発足以来、一学科の同窓会としては類希な存在として活動してきました。経済が右肩上がりの時代には全く考える必要無いことでしたが、時代と共に財政問題など問題点が見え、国立大学の



独立行政法人化を契機に表面化しています。会員の皆様方に現状をご理解頂くために、問題点の概要をご説明致します。

2 最近の洛友会財政状況

最近10数年間、本部の財政状況の概要を表に示します。会費収入が年々減少する傾向と、名簿広告の収入が特に最近減少する傾向が見られます。これらに伴い支部への補助金も減少しました。

本部では印刷業者や名簿発送法の変更で支出を軽減、また木村常任幹事の支部補助金配分法（『木村方式』と呼ぶ）による支部への補助など合理化に努めました。支部補助金の減少は支部の活動を抑制することになり、支部も頭の痛い状況と思われれます。

3 会費収入の減少

これは会員の会費納付率の減少が原因です。50%以上だった平均納付率が最近では40・9%まで減

少。卒業年次別の納付率平成15年度は中高年層では70%以上ですが、若い程低下し最近の卒業生は20%程度に低下しています。若い会員が同窓会に関心が低いのは古今東西に共通な傾向ですが、単に財政の問題のみならず同窓会の本質にも関係します。

これは京大が大学院大学へ、また情報学部の設定や研究科の改変など組織の変更が続き、学生諸君の教室帰属意識が薄れたとの原因も考えられます。ともあれ、学生・卒業生の意識を時代の変化に適応させる努力が必要でしょう。

東京支部は庶務幹事を新設、若い会員との意志疎通を図るなど、各支部でも動きがあります。

4 広告収入の減少

これまで企業は卒業生の採用に期待して洛友会の名簿広告募集に積極的に応じて頂きました。そのお蔭で洛友会は立派な名簿の発行や各種の活動ができました。

バブル後、企業も学生も大きく変化します。以前は学生の就職は殆ど教室主任教授の推薦でしたが、学生の自由応募が増え学生と企業がインターネットで直結する時代には広告の価値は下がります。商法の改正も影響しましたが、支部の多大な努力のお蔭で、広告収入の減少は抑制されました。

しかし、国立大学の独立行政法人化が追い討ちをかけます。
5 大学の独立行政法人化

昨年4月独立法人となり予算は評価次第、つまり研究費は自分で稼げ、評価の高い大学には予算を多くという原則に変わりました。教室は桂キャンパス移転と法人化対応で多忙を極めています。法人化で、大学は研究成果を企業に売込み、企業は大学の新しい研究の芽を探し求めます。産学協同は名簿広告の意味を薄め、洛友会の財政を更に圧迫します。

この環境では広告を担当する支部役員の負担が極めて過重で、名簿広告廃止の声もあります。一部で個人が企業名で醸金という胸の痛む歪も生じ、広告収入に強く依

洛友会本部会計の概要（名簿発行年のみ示す）

平成年度	3	5	7	9	11	13	15
納付会員数(名)	3432	3291	3461	3296	3355	3232	2720
会費収入(万円)	1010	1042	1038	988	1006	969	816
会費納付率(%)	61.6	57.8	58.7	53.7	53.2	49.5	40.9
名簿広告収入(万円)	1108	1018	1149	1050	1409	1035	841
支部への補助金(万円)	1021	967	995	921	1074	1011	721

注 (1) 全ての数値は各年度末の値である。(cf.従来発表の数値は毎年2月末の値)
(2) 但し補助金は(名簿発行年+翌年)の2年間の総補助金額を示す。
【最近の経常経費】名簿印刷・配布費：約500万円/2年、洛友会報の印刷・配布費：約250万円/年、本部事務費：約400万円/年

洛友会役員

会長 近藤文治
副会長 大嶋幸一

支部長

関西 三木 一
東京 馬場 征彦
中部 増田 宗敏
中国 池内 浩一
四国 武智 泰三
九州 岡智 範彦
北陸 中島 恭一
東北 大塚 寛
北海道 芝山 龍一

幹事

木村 磐根
神戸 俊夫
中村 行宏
松重 和美
松本 博

迎春
二〇〇五年一月一日

存する体質の改造も必要です。個人の醸金は別の問題を提起します。本来は寄付として感謝をもって顕彰すべきで、この形の収入も真剣に考える必要を感じます。

(洛友会会則第13条…本会は会費及び寄付をもって経理する) 一方、歴史の変革を前向きに受け、洛友会・教室・企業の新しい関係を模索する努力も必要です。

6 変化の中の洛友会

この環境の中では財政の健全化が必須です。支出削減には名簿と会報の経費の合理化が、収入では会費納付率の向上と広告収入減少への対策が不可欠と考えます。

問題の解決に基本的な課題は、洛友会に運営の新しいルールを作る構造が不足な点です。幸い運営方法や実行計画を議論する組織として、本部常任幹事(木村磐根名誉教授)と関西・東京両支部長(会員の80%を占める支部代表)の会合が一年から活動しています。この種の会合を正式の会議と認めて、改革促進を図ることを提案します。

また洛友会の実体である支部が必要な施策を自由に実行できることが必要です。洛友会には支部の自主性を掣肘する思想は無いと理解しますので、地方自主の思想を再確認すれば、支部は遠慮せずに更に動き易くなるでしょう。

(洛友会会則第17条…(略)各支部の会則は本会則に準じて支部において作成する。)

7 名簿の問題点

この問題は重要で同時に面倒な問題です。名簿経費の削減には、発行回数や単価などを減らす方法と電子化する方法があります。

電子化名簿の利点は、経費削減以外に印刷名簿の廃棄に伴う環境問題や個人情報漏洩問題が無い点ですが、3つの問題があります。(1) インターネット特有のセキュリティ問題。技術的検討が必要。

(2) 電子化に対応できない会員へのサービス。東京支部の一部のアンケートでは中高年層の1/3が印刷名簿を希望しています。(3) 電子化名簿での広告方法。

活動の継続には広告収入が必要で、会員と広告主双方が満足する電子的広告法を探るのが必要です。当面は印刷名簿の経費削減を図りつつ、問題点の総合的解決法を究明するのがよいのでしょうか。

8 あとがき

激動の時代、洛友会も変わらねばなりません。今後改革の実行段階に入り、順次着実に具体化されると期待します。会員皆様方のお知恵も拝借して、洛友会の更なる発展の基礎固めにアドバイスとご協力をお願い申し上げます。



教室だより

電気系教室懇話会報告

平成16年度の電気系懇話会は10月22日(金)に、約120名の参加のもとに開催されました。

第一部の講演会は、3人の講演者をお招きし、午後3時より電気総合館中講義室において行われました。講演会の進行は、鈴木実教授(電子工学専攻長)が務められました。

講演会の最初に、島崎眞昭電気電子工学科長からご挨拶がありました。京都大学は4月より国立大学法人となり、規制が緩和されるとともに厳しい競争にも直面しています。現在、電気電子工学科および大学院工学研究科電気系2専攻はそれぞれ自己点検を行っており、近々外部評価を受ける予定です。現状を率直に見直し、将来の

大学評価に備える重要なステップと位置づけ、学生、卒業生、教職員へのアンケートや、各種データの整理を行っています。新しい国立大学には従来にも増して社会との連携交流、学生諸君への実社会に関する適切な情報提供が求められており、電気系教室懇話会がこの面で大きく貢献してくれることを期待していると述べられました。

最初のご講演は、田丸啓吉先生(昭33年卒、名誉教授)による「LSIと40年—LSIの消費電力問題の変遷—」でした。196

0年代のICが、70年代にLSI、80年代にVLSIとなり、現在では素子数が10の8〜9乗個に達しています。素子数の増加により90年代後半から消費電力が問題になっていますが、その対策を自身で経験の交えて紹介されました。先生は1970年代に東芝でPULCEという16ビットのマイクロプロセッサを開発されました。高速化のために、サブマイア上にSiのNMOSを世界で最初に作られました。消費電力が5Wであったので、トランジスタのしきい値を下げることを、これも世界で初めてされたそうです。また、フィンをつけることで放熱効果を高められました。最近のCMOSでは、消費電力が電源電圧の2乗および周波数に比例するため、電源電圧



迎春

二〇〇五年一月一日

京都大学

電気関係教室

教官一同

フジテック株式会社

取締役会長 大谷 謙治

ヤマハ株式会社

松下電器産業 株式会社



日本電池 株式会社

取締役社長 村上晨一郎

が5Vから0.8Vまで下がっていきま
す。しかし、電源電圧が下がると
遅延時間が長くなりスピードがお
ちる。これにはしきい値を下げる
のが有効であるが、こんどはリー
ク電流が増えるという問題がおき
る。そこで、スピードに応じて電
源電圧やしきい値、そして周波数
を変える技術が開発されているそ
うです。また、ゲートトリックを下
げるために、新しい絶縁膜も開発
されています。今後はプロセスサ
の並列化やCMOSに代わる新し
い素子の開発が必要であり、学生
諸君への期待を述べて講演をしめ
くくられました。

2番目の講演は、衣川清重氏
(昭44年卒、(株)日立ディスプレイ
ズ技師長)より「ディスプレイ
技術及びディスプレイ産業の現
状」と題してお話いただきました。

まず、日立ディスプレイズの紹介
をされた後、フラットパネルディ
スプレイ(FPD)技術の概要と
市場規模を説明されました。ディ
スプレイデバイスには液晶(LC
D)やプラズマディスプレイ(P
DP)などがあるが、それぞれ技
術が異なるためデバイスの選択が
きわめて重要であるとのことだ
す。用途には、携帯電話、パソコ
ン、TV、カメラ、プロジェクト
などがあり、現在の市場規模は5
兆円に達しているそうです。主流
となっているaSi TFT液晶は普及
とともに価格が急速に下がり、従
来のCRTモニタを駆逐しつつあ
ります。また、マザーガラスの大
型化が進み、投資額も巨大化して
います。生産量では韓国、台湾が
日本を上回り、研究開発でも両者
の台頭がめだちます。産官学の共

同による国際競争力強化が必要で
あると話されました。次のフロ
ンティアは大型フラットパネルTV
用とユビキタス端末用のディス
プレイであるが、前者についてはP
DPおよび韓国、台湾との競争が
予想され、後者については新しい
アプリケーションの創出が必要だ
そうです。日立では独自の技術と
してIPS(in plane switching)
液晶やインバルス駆動により広視
角性および動画の視認性にすぐれ
た大型パネルを開発し、2006
年から松下、東芝との合弁会社で
量産を開始するそうです。また、
携帯用として低温pSi液晶にプロセ
ッサを組み込んだパネルや、有機
ELによる全固体かつ自発光のパ
ネルも開発されているそうです。
現在、華やかにみえる情報家電機
器の背後でこのようなご苦労があ
ることを知ることができました。

英保 茂教授 最終講義のご案内

英保 茂教授(電子工学科昭39年卒)におかれましては、来たる
平成17年3月31日付で、停年を迎えられることになりました。
左記の通り先生の最終講義を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

日時 平成17年3月2日(水) 午後3時より
場所 吉田キャンパス 電気総合館大講義室
題目 画像情報と計測 — 30年有余の研究を振り返って—
連絡先 京都大学情報学研究所システム科学専攻
杉本 直三 TEL 0774-38-3937
sugi@image.kuass.kyoto-u.ac.jp

英保 茂教授 停年記念パーティのご案内

英保 茂教授の停年記念パーティは平成17年5月8日(日)
ホテルグランヴィア京都で開催予定です。

最後のご講演は、谷口治氏
(昭48年卒、(財)電力中央研究所
システム技術研究所長)による
「わが国の電力自由化と系統技術」
でした。まず、現在進行している
電力の自由化について説明されま
した。1995年に卸売りが自由
化され、2005年には卸電力取
引所が開設されます。小売りも、
2000年に2000kw以上、2
003年に500kw以上の需要家
について自由化され、2005年
からは50kw以上の需要家が自由
化されるそうです。つきにこのよ
うな電力自由化における系統技術
面からの課題として、自由化によ

る不確実性の拡大に対処すること
が重要であると話されました。供
給の信頼性を上げようとすると供
給コストが増え、下げると停電が
起きることによる停電コストが増
える。両者を合計した社会コスト
が最小になる信頼度レベルが望ま
しいが、しかし想定した需要がす
こしずれると信頼度が大幅に低下
するということが起きる。したが
って、不確実な要因に対してロバ
ストなシステムを作る必要がある
と話されました。また昨年の北米
大停電について紹介され、大規模
な停電が起きないような系統構成
や運用方法、人間と自動システム
の協調、系統および機器保護など
について検討が必要であると述べ
られました。最後に、太陽光や風
力発電など分散形電源はクリーン
かつ無尽蔵であるが出力が不安定
であることから、赤城試験センタ
ーで行っている需要地システムに
関する研究を紹介されました。分散形
電源を組み込んだ新しい電力シス
テムの制御やエネルギー効率およ
びコスト改善など総合的な研究が
実施されています。会場からは、
北米大停電における補償問題につ
いて質問がありました。

以上で第一部の講演会が終わり
ましたが、いざれのご講演も興味
深い内容でした。鈴木教授が講演
者の方々へ謝辞を述べられ、聴講
者の拍手をもって閉会となりました。

第二部の懇親会は午後6時よ
り、会場を吉田(旧教養部)生協

迎 春

二〇〇五年一月一日

継 SSCC

代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発 継

代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学

理事長 松尾 泰

高周波熱錬 継

代表取締役社長 山下 英治

継 村田製作所

代表取締役社長 村田 泰隆

食堂に移して行われました。懇親会の進行は大澤靖治教授(電気工学専攻長)が務められました。まず工学研究科長・工学部長の荒木光彦教授から「挨拶がありました。続いて、参加された名誉教授の中で最年長の小川徹名誉教授のご発声で乾杯を行い、講師の方々、卒業生の方々、大学教職員、学生等の参加のもと和やかに懇談がもたれました。日頃接することのできない方々と気軽に話してできるよい機会でした。料理を囲みながら和気あいあいとした雰囲気でお話はずみずみしました。途中、名誉教授の木村磐根先生のスピーチがありました。電気系教室の洛友会について紹介されるとともに、母校の学生諸君と話す機会が得られたことを喜んでおられました。懇親会は午後7時半にお開きになりましたが、最後まで料理、飲み物ともに豊富にあり、楽しいひとときを過ごすことができました。

最後になりましたが、ご講演を快くお引き受けいただいた講師の方々をはじめ、遠くからご参加いただきました卒業生の皆様、ご参加くださった教職員、学生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、この会をサポートしていただきました洛友会ならびに関係会社の皆様方に深く御礼申し上げます。

垣本 直人(昭50年卒)記



会員寄稿

香水若返り法

太田 實(昭24年卒)

一年ほど前に「香水健康法」を書きましたが、その後の自分の体調を考えてみると、この考え方が間違っていることが分かりました。結果は健康ではなく「若返り」になってきたのです。幸か不幸かこれを実行された方は「若返り」が出てくるかも知れません。小生の場合若いうちから79才になるまで年齢相応に老化してきたものが逆の方向に進んでいます。全く考

えてみましたが、年齢とともに「老眼」になる人が多いのです。この「老眼」が進まなければ健康です。これに対し「老眼」が軽くなつて若い時と同じように見えるようになったとしたら、或いはその傾向があればこれは「若返り」です。実は「若返り」の結果が出る前はかなり大きな変換期がありました。4月2日頃それまでに無く体調の悪い時期がありました。トイレに行く前に漏れてしまつたり(小)立ち上がるのに時間が掛かるために、その間に漏れてしまうことになる訳です。ズボンまでビショビショになりました。トイレにしゃがみこんだきり立てなくなつてしまつたり、大変な時期がありました。

た。イヨイヨ「紙オムツ」が必要になつたかと思つた時期がありました。「小」の方も1時間もたなかつたような日もありました。これはホルモンのバランスが崩れた時に起こることがあります。この期間は比較的短くその直後から上の「若返り」が始まったのです。尾籠な話ですが、小生ずっと軟便でした。これは大腸の吸水機能が著しく衰えていたのです。ところが最近便が形を成してきました。これは大腸の本来の吸水機能が復旧したので、これは健康ではなく「若返り」です。小の方でも夜の排尿の回数が減つてきました。若いときはかなり少ないのです。目は覚めても尿意はそんなにありません。寢床から立ち上がるのも楽になりました。一時は両側に掴まつて立とうとしても腰が抜けてしまつたこともあり。現在は後ろに手を着けば簡単に立ち上がれます。昔は秋葉原の階段がきつかつたのですが最近はその割に楽になりました。

考えられません。

「香水」は兎に角非常に心地よい香りを持っていますから「香水」の香りを楽しんでいれば、健康になり、「若返り」が有つても不思議ではありません。「血管を拡げる物質を作る」だけでは説明がつかみません。大きく脱線をしてますが、兎に角予想外の素晴らしい効果が出ていますから、これは歓迎すべきことです。

結果は「健康」ではなくて「若返り」になっているということ、それだけ効果が大きく、方向が全く違うということです。昨年「健康法」を書いた時には「若返り」の感触は有りませんでした。現在は違います。明らかに健康法の方向では有りません。体調が明らかに殆どが「若返り」を示しています。これは自分でも全く予期していなかつたことです。健康法が間違っていたわけでは有りません。予期しなかつた「何者」かが働いて、別の良い結果が出たということとす。

優雅な「香水」の香りを楽しんでいけば自然に「若返り」をすることが出来る。こんな結構なことは有りません。「香水」は女性のものだ等とケチな考えを捨てて「若返り」に進みましょう。「香水」のカタログにより「香水」は女性に使われるものですから、女性らしさを作るように考えられています。ということ

以上は「香水健康法」から出てきたことで、やっていることは特別なことをやっているわけでは有りません。しかし「心地好い」刺激で「扁桃腺」が血管を拡げる物質を作るといふことだけでは、この「若返り」は説明できません。何かもっと大きな動きがあつて「若返り」を起こしているとした

迎春

二〇〇五年一月一日

電気評論社

財団法人

近畿地方発明センター

理事長 近藤 文治

財団法人

応用科学研究所

京都電子計算

田中プリント

は「香水」自体に女性ホルモンが組み込まれているのではないかと考えられます。これは若い女性用に考えられている筈ですから、この「香水」を使えば「若返り」が出てくるのは当然のことではないかと思われまます。昨年の「香水健康法」で小生が香りの材料として、香りの良い花の代わりに「香水」を選んだことから「若返り」が始まったと考えられます。目的は香りだけのつもりだったのですが、「香水」の機能「女性ホルモン」を取り込んでいたのかもしれない。これは目にみえないことですが、体調を見ればそのものズバリかそれに近いものを考えざるを得ません。世の中に「若返り薬」等というものが有るとは思いませんでした。

スーパーカミオカンデを

見て思ったこと

川村 修 (昭35年卒)

昨秋、スーパーカミオカンデを見る機会に恵まれた。スーパーカミオカンデはその前身であるカミオカンデを大型化したものである。カミオカンデはもととも陽子崩壊を観測するために作られた装置である。この装置は1983年に観測を始め、2年後陽子崩壊は観測されないとする初期の目的を達したとしたのか或いは陽子観測だけでは辛くさいと思ったのかニ

ュートリノも観測しようというところで大改造を行った。その直後、大マゼラン星雲で起きた超新星爆発で飛び出したニュートリノのラッシュを捕まえた。この11個のニュートリノのラッシュの観測で小柴教授はノーベル賞を貰った。小柴教授の言う運も努力の内だが、何十年に一度の現象に装置が出来たとたんに出会うなどと言うことは、事故発生に関するハイインパクトの法則どころではない。将に僥倖である。

これに味を占めたのかどうか、1996年にカミオカンデの10数倍の観測能力を持つスーパーカミオカンデを100億円かけて作った。場所は岐阜県の富山県との県境近くにある三井金属鉱業神岡鉱業所の地下1、000メートル。因みにこの神岡鉱山はここから流れ出たカドミウムが昔下流の神通川流域にイタイイタイ病を惹き起こしたことで悪名高かった所である。勿論今はそんなことはない。スーパーカミオカンデは直径40m×高さ40mの円筒に5万トンの純水を満たし、周囲、上下に直径50cmの光電子増倍管11、000本をギッシリ並べたものである。因みに光電子増倍管の値段は1本30万円である。

数年前、11、000本の光電子増倍管のうちほぼ半分の5、000本が割れた。今は残りの6、000本を再配置して使っている。そうだ。原因は、最初1本が割れたのは雪崩現象で破損が拡大したことは分かったが、最初の1本が割れた原因は分かっている。どうしてある。残った6、000本には波及事故にあわないようにカバーをつけて一件落着いている。何故最初の1本が割れたのか、光電子増倍管は全部水の中に浸かっている。で重量的なストレスは小さい筈。地震は無かったという。この不可思議な現象の原因をトコトン追求していったならば、もう一つのノーベル賞のネタに出会っていたかも知れない。素粒子の振る舞いには何十年に一度というチャンスに賭ける心構えが出来ているのに、放電管という普通の物の故障の原因にはロクに関心を示さないう心構えは訝しい。視野の狭さを感じたことである。

スーパーカミオカンデには外国勢を含めて常時150人の学究が居て、3交替で地下に詰めている。モニター画面を見せて貰ったが、スーパーカミオカンデの内周を横に引き延ばした横長の面、上下の内面を表す2つの楕円面の何れにも赤、黄、緑、青などいろいろ色の粒が無数に光っている。これは総て外来雑音だそうである。何時起こるか分からない、しかし科学史に名が残る現象に期待を掛けて150人も自分が自分の人生を賭けるインセンティブはなんなのであろうか。何十年に一回と言

えば確率的には150人の殆どの人何れも発見出来ずに人生を終わることになるのだが。壮大な夢か、ロマンか。

もう一年も前になるが、筑波にある高エネルギー加速器で作ったニュートリノを250km離れたこスーパーカミオカンデを狙って飛ばして、ニュートリノは質量を持つことを証明したと新聞が報じた。その記事を読んで何かやれやれと感じたことを記憶している。それまではニュートリノは質量を持たないとされていたのである。我々一般人は「質量不滅の法則」を習って育ち、そのせいで質量のない物が動くと言われると、そんな馬鹿な幽霊でもあるまいしと一笑に付したくなるからである。質量不滅の法則と言えば、もう一つ日頃からコソツリ一笑に付していることがある。宇宙生成に関するイギリスの宇宙物理学者ホーキング博士のあの「ビッグバン」である。博士は、宇宙がいまも膨張を続けていることから帰納して、宇宙は一点が爆発して出来たと唱えている。この説は広く受け入れられているのだが、小生は無制限の一点に無限大の質量があり得る筈がないと眉に唾しているのがある。アインシュタインはとっくの昔に質量はエネルギーの塊だとして示しているし、最近では質量を専門に受け持つヒッグス粒子なる物を提唱している学者もいるの

で、宇宙物理学者や素粒子物理学者は質量不滅の法則などナンセンスと思っているであろう。日本の著名な宇宙物理学者によると、宇宙の99%はダークマターと呼ばれる正体不明の物質で満たされており、これの解明がこれからの課題である。ということには自然界の1%しか未だ解明されていない。大昔デカルトは、科学には形而上学と形而下学があるが、形而上学は手が付け難いから先ず形而下学から始めるがよからうと言ったとかで今自然科学が全盛なのだが、デカルトから何百年も経って未だ1%しか解明されていない状況ならば、精神領域に本格的に手が付けられるのは何時のことかと思うのである。

万博とリニモ

林 靖人 (昭和42年卒)

「愛・地球博」「愛知万博」などと呼ばれています。2005年日本国際博覧会。3月25日から半年間開催されますが、国内においてもまだまだ知名度が低いようでありませんが、工事の方は着々と進んでいます。この原稿は11月下旬に書いていますが、会報が届く1月には最後の仕上げに入り、開幕が今か今かと待たれている頃かと思えます。さて、ここではマスコミでもほとんど報道されていない事柄も折り交ぜて紹介します。

この博覧会会場は名古屋市の東部に隣接した丘陵地帯で保安林と言ふこともあつて緑豊かで、愛・地球博という愛称がピッタリの所です。当初の会場となる予定地の近くには、絶滅に近いイヌワシの営巣地があると云ふことで、動物保護団体などの反対により、二つの近接する会場での開催となりました。メイン会場は長久手町(秀吉・家康の小牧・長久手の戰場となつた所)にあります。

工事の進捗状況ですが10月に入つてまさに雨後の竹の子の如く、日ごとに一棟二棟と外観を現わし始め、いよいよ開幕が近づいて来たとの感がします。これに比例して会場内の警備が厳しくなり、万博協会の許可証が無ければ会場内に入れず、また全ての車両は入場二日前までに承認を得ないと入場出来ない状況になっています。夜間には協会のパトカーが巡回しています。11月に入りますと外国館展示用の建物が各国に引渡され、内装・展示の関係者か外国人もめつきり増えるにつれ、テロを警戒してか、警備も一段と厳しくなってきました。また最近では一部でライトアップ調整も始まり、帰宅路を楽しませてくれます。

さて、ここでクイズです。建物の外観が現れはじめた事には触れませんが、この中の一パビリオン。始めの頃は他の建物と変わりないように見受けましたが、途中から

一気に正面となる壁面の工事を進め、「○○館」と早々に表示を始めた。企業イメージとしてPRが上手とも思えない企業ですの驚いています。さて、この企業はどこでしょうか。誰もが知っている日本を代表する企業です。

ここで皇太子殿下の話です。博覧会協会の名誉会長でありますが、既に二回来訪され、工事の進捗状況を視察されています。その折、博覧会のマスコットキャラクターであるモリゾーとキッコロが愛子様のお気に入りとお話されたこと、急遽、協会がこのマスコットの縫ぐるみをお届けしたと聞いています。万博が成功裏に終わることを、期待してやみません。

この会場周辺は、名古屋市に近いこと、自然環境に恵まれていること、また「あいち学術研究開発ゾーン」とも位置付けられ、注目されていますが、鉄道系高速大量輸送機関が無く、バス、車輸送に頼っていますので交通渋滞が著しい地域であります。この状態を解消すべく計画されているのが第三セクターの愛知高速交通東部丘陵線(愛称リニモ)であります。リニモは名古屋地下鉄東端の藤が丘駅と愛知県東部を南北に走る愛知環状鉄道の八草駅を結ぶ十キロ弱の路線であります。リニモは常電導磁気吸引浮上・リニアインダクションモータ推進方式を採用した「日本初」の実用化路線であり、

運転士無しの自動運転を目指しています。浮上して走行するため、振動や走行音も低く、快適な乗り心地で、沿線環境にもやさしい乗り物です。また、浮上して走行するため摩擦部分がなく、車両やレールとも保守の手間が低減します。世界に先駆けての実用化となることから、「先端的産業技術の中核」「交流・創造の拠点」を目指す名古屋東部丘陵地域にふさわしい交通機関であります。また、2005年に開催されます日本国際博覧会会場への鉄道系の輸送手段として位置づけられていて、メインゲートの入口に駅が出来ます。ただし、万博目標の輸送手段ではないので、輸送能力が低く、地下鉄などからの乗り換えで滞留が出るなどが懸念されています。12月に入ると本格的な試験走行がはじまります。3月初旬に開業することでありますが、一日も早く開業することが期待されています。

「大人の住む国」

成松 洋 (昭46年卒) 記

大学卒業後シリコンバレーの会社と日本の会社の合併で設立された会社に就職して、あつたという間に30数年が過ぎた。会報紙上で同窓諸氏の様々な海外体験を拝見し、自分の経験に照らしながら楽しく読ませて頂いている。日本の更なる国際化の必要性が言われる

中、私のささやかな経験もこのリストに加えていただき、何かの参考にしてもらえれば幸いです。入社して3年後、その米国親会社の技術部で働きながら同時に大学の電子工学修士課程を履修する機会を得て、梅雨模様の羽田を後にしサンフランシスコ空港に降り立った。知り合いの方が空港まで迎えに来てくれたが、その大きな車にまずビックリし、次に周囲を見渡してみるとどこまでも澄んだ青い空と大地の広がり、走り始めた片側四車線の思いつきり広い高速道路。ああこれがアメリカなのだ。なあと、何もかもが驚きで今でもハッキリと脳裏に焼き付いている。日本の高度成長が始まった頃であり、まだ1ドルが300円であった。さすがに360円という固定相場ではなくなっていたが。

しばらくはキャンパス内にある学生寮に住むことができた。予め送っていただいた荷物と手荷物の開梱にも大して時間はかからない。一通りの片付けを終え、午後のパロアルトの空気を吸いに出かけた。町をぶらぶら歩いている最中、先ほど以上の驚きが訪れる。向こうから歩いてきた白人男性に話し掛けられた。「Hi. Do you know where a post office is located?」「エエッ、外人に道を聞くか?」これはカルチャーショック以外の何物でもなかった。たまたま幸いなことに、予め寮のおばさんに郵便局の場所を聞

いていて、そこで切手を買ったばかりだった。ビックリしながらも英会話の基本に沿って道案内をすることができた。その後、暫しこのおじさんとの英会話教室となる。

この初日の経験が、私のアメリカ体験の原点である。人種の垣根であるカリフォルニアはアメリカではないという方もたくさん居られるが、それはともかく、私はカリフォルニアの人の大らかさが大好きになった。どんな顔をしていても「ガイジン」という概念が無く、同じように扱ってくれる。逆に言えば、お客さんあるいはよそ者扱いをしないということである。勿論、このことによつて苦労したことは際限がなかったが。その後、ベトナム戦争の後遺症で難民の方々がたくさんアメリカにこられ、会社の生産現場に配属された方々も少なからずいた。英語も殆ど喋れない。「同じアジアだから言葉が通じるだろう?」と何度か通訳を頼まれたのには閉口。これを、「偏見を持たない」と見るか「天真爛漫で何も考えていない」と見るか、はたまた「ただの無知」と切つて捨てるかはお任せするが、予めバイアスを持って人に接するよりはよほど良いことだと思うようになった。

少し前の会報で、小嶋さんがアメリカの窓口の無愛想について書かれていた。地域の差でもあると思うが、私の場合は逆に、郵便局

員、郵便配達、スーパーのレジ係りなどの対応がとて気さくで日本での横柄さといえれば雲泥の差、という印象がとて強くそれが今に至っている。最近に比べれば当時はまだ日本人が少なく珍しかったことも手伝い、下手に世間話を始めると延々と続いたりもした。ただ、お互い最初に声を掛けることが気さくな話が始まるきっかけかも知れない。それ以外にも、地理不案内で運転していてもクラクションを鳴らすようなこともなく、すぐに道を譲って入れてくれる、スーパーマーケットなどで体が触れそうになるとすぐに“Excuse me”が出てくるなど、今でも30年前に経験したことと変わりがなく殆ど嫌な思いをしたためしがない。もちろんアメリカも暗部を見れば切りが無いが、それでもやはり懐の深い大人の国だなと思うことがしばしばである。

この外国の人の気質に関連した話題を、同じ会報で安本さんも書いておられる。私も全く同じ感覚を持っていて。同時に、彼らのカウンターパートである日本人について、あまりステレオタイプな話にしてもまずいが、私は、主張が弱い(無い)あるいは主張の仕方(論理の組み立て方と議論の仕方)に全く疎いところがあると感じており、これからの時代、この部分を早急に改善しなければならぬと思う。何せこれまでの日本の文化では、「場の空気」が大切

で議論をする者は嫌われてきたのだから180度の発想の転換である。外国の人は何かにつけて自己主張をするが、「強い」かどうかは相対的なもので別にして、(いろいろな文化が交じり合っている)自分の立場を説明し自分の考えを述べるのが必要であり、さもないとお互いに理解できないのだ、ということだけである。だから、先方の主張に対してこちらも同じように論理的に主張するのが必要はないと思えば気も楽になる。そうは言っても、我々は慣れない議論が始まっただけで難癖を付けられた気分になることも多いが、「ただ言ってみただけ」ということも含め、先方には全くその気は無いことも多い。

しかし、やはり英語でやるとすればハンディはあるし、外国の皆さんは小さいころから議論には慣れているしディベートの授業もあるくらいだから、本当に上手で手ごわいのは事実。ゲームでは先手必勝がしばしばだが、議論を先に仕掛けるのも我々は不得手だから、対応も後手にまわる。これは大きく言えば国益にも絡む。最近の事例でも思い当たることが多いと思うが、日本全体の心構えあるいは一種の教育の問題として認識することも必要なのではないか。いくつか書いたが、ビジネスや国益といった色々な利害が絡むところでの戦略的なやりとりと、それ

を離れて人間として尊敬をもって付き合えるかどうかということとは、別の次元のことである。「こんなことを言ったら友達を無くすかな?」と考えるのではなく、ハッキリ言うべきことをお互いの尊敬を込めて誠実に議論し、適切な合意点を見つuckerことこそ、お互いの大きな信頼を得る決め手だと信じている。

この30年、日本は驚異的な経済発展を遂げ物質的に随分豊かになったと思うが、果たしてそれに伴って、健全な議論ができ大人としての行動ができるような人が住む国に近づいただろうか? 私はアメリカ崇拝者でもない悲観論者でもないから、日本人も「衣食足りて礼節を知る、そして外に対しても対等な貢献をする」ことができると信じている。しかし日常生活的にも、肩がぶつかっても知らぬ顔、車を運転すれば俺が俺の世界、ごみや火のついたタバコをどこでも平気で捨てるような自分しか見えない人が以前より増えているのではないかと。また、様々な場面での健全な議論が減ってきている気がするし、対外的にも対等に議論ができるようになりつつあるとは言い難い。まだまだ道のりはある。それでも常に自分自身も反省と努力をしながら、他人や地球と共存できる「大人」になることを心掛け、日本を、世界が認める「大人の住む国」に近付けたものである。

同窓会だより

卒業40周年記念同窓会

我々昭和39年に卒業したものは今年で卒業40周年になる。TVでも東京オリンピック40周年行事を報じていたが、当に卒業した年に新幹線ができ名神高速が開通したのだ。電気総合館が竣工したのも4回生の時だった。今サンデー毎に日族がどんどん増えている。量の充足を追い求めた時代から大きな転換期にあることを痛感する。

京都周辺に在住するものを中心となり1年以上前から計画していたがやはり場所は京都。創立百周年記念で改装なった時計台下の国際交流ホールで開催を希望し秋季で唯一空いていた10月9日(土)に決定。14時電気総合館前に集合して吉田山散策、京大博物館見学後、電気総合館で「学」の英保君の「京大の現況と研究生活」、「余技」の絵でプロ級の佐藤君の「スケッチで楽しむ世界の旅」、「趣味」の丹羽君の「珈琲とWEB」と3氏の卓話の後懇親会を計画した。10日は気象上では「好天」の特異日でオリンピックの開会式が行われたことから期待していたが台風が来た。出席予定者54名中関東から来るのが35名。幹事連は大いに気を揉んだが中央道を選ぶ者前日から来るものもあり結局7名の欠席。出席中家が床上浸水にあった者もいた由。86名中物故者5名。

居所不明者4名を考えると70%の出席率になった。3氏の卓話はいずれも非常に興味深く好評。懇親会は近藤先生が体調を崩され急にご欠席になったが学年主任だった池上先生のご臨席を得て定刻に開催。物故者への黙祷、39京電会の規約・役員(とりあえず留任)を決定後、池上先生の乾杯の音頭で開会。広々とした赤い絨緞の新しい会場は皆初めてのことで雰囲気もよく卒業以来の顔もあり話も弾み和気藹々のうちに雨で登れなかった「紅燃ゆる吉田山」を歌って散会。26名が泊まった京都駅前



のエルイン京都で35名出席の2次会。予期したよりも遙かに少なかつた酒量が年齢を感じさせた。

翌10日はやはり快晴。ゴルフ組は瀬田ゴルフで20名5組。林、砂原両君が同ネットだったが砂原君は初参加だったので林君の優勝。観光組10名は住友の泉屋博古館で中国古代の銅器鑑賞、河道屋で蕎麦を食べて会津藩の居所だった黒谷の金戒光明寺を経て神楽岡から前日登れなかつた吉田山へ。在学時裸の地面にポツリとあつた遺物の碑が鬱蒼たる森の中にあり、当時見えた時計台も樹木で見えず40年の歳月を感じさせた。再び時計台下の新しいラウンジでお茶を飲んで散会。

毎年やつたらどうかという声も多々あり、ゴルフ会のようにもう少し軽い形で幹事持ち回りという案も検討することにした。楽しい会合であつた。

留岡 寛(昭39年卒) 記

本部だより

洛友会活動の活性化に

関する改善策について

洛友会本部幹事

木村 磐根(昭30年卒)

洛友会本部の役割はこれまで、名簿管理と隔年の名簿の印刷発行、年4回の会報の発行を主として行つてまいりました。池上文夫副会長の巻頭言にも書いていただ

いておりますように、会費の納入率が漸減し、名簿発行年に行う広告募集もだんだん集めにくくなつてきていることなど、洛友会活動の各所での工夫改善が必要となつてきております。これらのことを踏まえて、2004年度の本部総会では、さし当たつて洛友会の財政状況の改善、名簿管理の改善などを、関西支部のご協力により具体化することをご了承をいただきました。

そこで、去る11月20日に、関西支部から三木支部長、野口総務幹事、法田会計幹事、および東京支部から馬場支部長、古浜副支部長および本部の木村幹事が京都で集まり、具体的な進め方を検討いたしました。その結果をあらましご報告いたします。

1 洛友会本部活動の今後の進め方について

洛友会の活動維持は、やはり電気系教室の先生方の積極的な協力なしには難しい。そこで、後に議論する具体的な改革案の実行を考慮して、教室の役割に対する期待を明確にしたうえで、たとえば関西支部長(および幹事)(東京支部長の参加も期待される)と教室代表(教室幹事など)、および本部の幹事をコアとする会議を適宜開催し、本部の拡大幹事会と位置づけて洛友会活動の活性化、将来計画の企画立案を図るのがよい。

2 会費納入方法の多様化案

これまでの会費の納入方法は郵便局からの振込みに限られていたが、このほかに銀行の自動振込みやコンビニでの振り込み方式も導入し、会費納入の便を向上することとが会費納入率向上につながることを考えられる。ただ銀行自動振込みなどでは振り込み手数料が1件150円かかるため、この費用を洛友会で負担することはさらに財政を圧迫することになる。今後はコンビニなどでの振り込み手数料(75円)も含め、振り込み費用を会員にご負担いただくことでご協力頂けないかという結論になつた。このこととあわせて、振込み方法の多様化をした場合の会員各位のご利用の希望をアンケートで調査させていただくこととなつた(本号に同封)。

3 会員データの管理

これまで会員の住所、その他会費を含む諸データの管理は昭和60年以来京都のコンピュータ会社(KIP)に委託してきている。そのため古いデータベースを基本に管理されていて、印刷名簿発行時にもその形式の変更などに対する自由度が限られており、内容訂正などに対する費用もかなりの負担になつていく。一方、ITの普及した現在、PCベースでの会員のデータ管理が容易となり、今後の活動にもメリットがあることから、データを新たに入力する手数料を考えて、現在委託中の業者か

ら一日も早く独立させることが必要との結論になつた。

4 名簿の発行

2005年度は名簿発行年の予定であるが、上記のような名簿発行にも対応できる形式でのデータベースを作成すればかなりフレキシブルに対応できる。ただ、名簿のデータはこれまでから会員本人からの訂正の申し出によつてのみ修正がかけられていた。ご本人からの連絡がない場合には古いままであり、会員から、名簿の信頼度が大変低いとご注意を頂いている。本会報でもお願いしているが、各卒業年次で同期の方々の住所などの管理が行われていると思われ、是非そのようなデータを会員データベースの更新に役立てて行けるようご協力をお願いしたい。新しいデータベースは、それらによる最新情報を用いて入力することを考えている。これら点を考慮すると、2005年度には新データベースでの名簿発行が難しい可能性があり、2006年度まで名簿発行を延期することも検討する。また当面は名簿のCD-ROM化は考えず、一方、電子メールアドレスなどは掲載し、またできるだけコンパクトな紙ベースでの名簿の発行を目指している。

5 名簿発行に関連した広告募集の件

時勢の影響もあり、東京支部では昨年度集められた広告費は30

0万円以下で、次年度の期待額は150万円程度と確実に減少の傾向にある。従つて今後の広告費集めは無理と判断しているとの報告があつた。ただ広告費は大部分支部活動に還元されるため、広告費を集めないで支部活動を縮小せざるをえないということになる。今後は受益者負担の原則で、会員から別途会費を集めることも検討する必要があるという意見が出された。各支部では、今後の広告費期待の可能性について、もう少し調査してみることが話し合われた。

6 洛友会活動と教室の学生との関連

今後とも洛友会を維持してゆくには、若い卒業生や、在学中の学生に対して洛友会をもつとアピールし、洛友会会員であることのメリットを明らかにしていくことが必要ではないかという点で意見が一致した。ただ具体的な方法として、少なくとも本部の活動としては、教室の秋の懇話会をもつと卒業生にも宣伝して参加者を勧誘すると共に、この行事が洛友会の行事でもあるという位置づけにしてはどうか。それが教室と洛友会をもつと近づける方法のひとつであるという結論になつた。上記の検討の結論から、会費納入方法の多様化については、同封の返信はがきによるアンケートで会員の皆様のご意見を伺うことにいたしました。ご協力をよろしくお願いいたします。

支部だより

中国支部

第8回ゴルフコンペ開催

中国支部では、平成16年10月11日(月)広島佐伯カントリー倶楽部(広島県廿日市市)にて第8回ゴルフコンペを開催しました。

年1回の恒例行事となっている当ゴルフコンペも今回で8回目となり、三連休の最終日であったため例年より若干少ない7名の参加者でしたが、昭和30年卒から平成9年卒まで幅広い年齢層の方々にご参加いただきプレーを競い合いました。



当日は体育の日にふさわしく絶好のゴルフ日和に恵まれ、7名の参加者は優勝を目指して真剣に、かつ楽しく和やかにプレーを満喫でき、プレー後の表彰式を兼ねた懇親会でも大いに盛り上がりました。

今回の優勝者は、激戦の中ネット74(グロス85)の素晴らしいスコアを記録された上田博之氏(昭和57年卒)、第2位はベスグロ(82)をマークしながらハンデ差で惜しくも優勝を逃した松井三生氏(昭和45年卒)、第3位は細田順弘氏(昭和40年卒)でした。

当支部のゴルフコンペは恒例行事としてさらに充実していきたいと考えています。次回以降も支部全員にご案内しますので、多数ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

藤山 徹(平9年卒) 記

関西支部

家族見学会報告

関西支部では恒例の家族見学会を10月30日(土)に開催しました。本年は、愛知県まで足を伸ばし、犬山城と明治村を訪れる、歴史を楽しく旅となりました。あいにくの天候でしたが、三木支部長を始め総勢105名がバス4台を連ねる、盛大な見学会となりました。

一行は、大阪と京都を出発し名神高速道路を東進、養老サービスエリアで合流し、最初の目的地の犬山城へと向いました。犬山城は白帝城ともいわれ、尾張徳川家付家老の成瀬氏の居城であった城で、現存するわが国最古の天守閣があり国宝に指定されています。本年4月に、成瀬家から(財)犬

山城白帝文庫に移管され、これまで非公開であった成瀬家秘蔵の文物が公開されるようになりました。その関係で、ちょうど秋の特別展「犬山城主成瀬家と犬山の文化財」が近くの犬山市文化史料館で開催されていました。

犬山城の天守閣は木曾川南岸標高約40メートルの崖の上にそびえており、老若男女ほとんどの方が元気に急坂と天守閣の梯子段を登りきって、木曾川や犬山市外の絶景を楽しみました。また城内や文化史料館では、成瀬家伝来の甲冑や刀剣、長篠の合戦図屏風に代表される書画などの文物が公開され、戦国時代から江戸時代の様子に想いを馳せることができました。

また、文化史料館別館のからくり展示館では、祭りの車山(やま)のからくり人形や、祭りに関する資料などが展示されており、参加者の興味をそそっていました。犬山城の見学でお腹をすかせた後は、犬山城の足元にある名鉄犬山ホテルで昼食です。瀟洒なホテルの広間に参加者全員が一堂に会し、三木支部長の挨拶の後、飛騨牛など当地の素材を用いた会席料理に舌鼓をうち、なごやかに相互親睦を図りました。

午後は、博物館明治村を訪れました。明治村は、入鹿池湖畔の美しい景観の中に、明治から昭和初期に建てられた建造物を、日本全国はもとより、遠くシアトル、ハ

ワイ、ブラジルから移築し保存しています。その中には、呉服座(芝居小屋)、聖ヨハネ教会堂、西郷従道邸、三重県庁舎など国の重要文化財10件と愛知県の有形文化財1件が含まれています。それぞれの建物では、室内に家具調度などを陳列して往時の様子を再現するとともに、関連する資料などを展示しています。また村内では日本で最初に開通した路面電車「京都市電」や明治時代の蒸気機関車を走らせ、入場者の交通機関としても利用されています。

毎年9月に富山県八尾町で行われる、越中八尾のおわら踊り「風の盆」が、ちょうどこの日に村内で再演されましたが、降雨のため屋外行事が中止となり見学できなかったことが非常に残念でした。



一方で、11月1日の灯台記念日にちなんで、現存する最古の洋式灯台である重要文化財の品川燈台が特別公開されていました。

参加者の方々は、広い村内の隅々まで、それぞれの興味に沿って建物や展示物を熱心に見学したり、古き時代の風景を楽しみながら散策をしたりして、明治村のひとときを堪能されていました。特に、年配の方々が、幼少ころの記憶がよみがえるのか、懐かしげにされているのが印象的でした。

明治村に別れをつげた後、戦国時代・江戸時代から明治・大正・昭和にいたる歴史的文物の余韻や昔日への想いにひたりながら、帰途につきました。

法田 雅彦(昭52年卒)

第82回関西支部

ゴルフ競技会報告

第82回関西支部ゴルフ競技会が平成16年10月16日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は、晴天に恵まれ、アウトは福川氏(S30年卒)、インは河崎氏(S34年卒)の始球式でプレーを開始し、合計19名(うちシニアの部7名)が競技に汗を流しました。

結果は次の通りです。

(シニアの部)

- 優勝 福川 幸勇(S30年卒)
- 2位 新田 東平(S35年卒)
- 3位 河崎 達夫(S34年卒)

(一般の部)

優勝 亀山 卓郎 (S42年卒)
2位 松田 全弘 (S38年卒)
3位 細田純一郎 (S36年卒)
△第83回競技会のご案内▽
平成17年5月22日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース

多数のご参加をお待ちしております。
△連絡先▽
関西電力

八木 誠 (S47年卒)

山田 浩章 (H11年卒)

06・64446・9801

山田 浩章 (平11年卒) 記

中部支部

「秋の例会」

恒例となっております中部支部の「家族同伴・秋の例会」が、去る11月13日に29名の参加を得て開催されました。この例会は文化・研究施設の見学と行楽を兼ねたもので、今年桂キャンパスの見学が目玉でありました。

京都市については、今年の春総会の折に来賓としてお越しいただいた電気教室の佐藤教授より、プロジェクトを使って桂キャンパスの現状を報告していただきましたので、参加者一同久しぶりに向学心が目覚めたのか?秋には是非桂に行こうと言う事になりました。また本部時計台の下がフランス料理のレストランに変身した事も伺

い「昼食を時計台で」と言う事にもなりませんが、会場は一年先まで予約済と言うことで残念ながら実現できませんでした。時計台(フランス料理)の人気には幹事一同感心しています。

さて、例会ですが、当日は雨の合間にもかかわらず快晴に恵まれたのですが、高速道路に入るや否や事故による渋滞に遭遇し、さらに京都市内では秋の慢性的な渋滞により桂キャンパスには一時間以上遅れて到着しました。キャンパスでは休みにも拘らず我々のために、教室の専攻長をしておられる大澤教授の出迎えを受け、教室内を案内して頂きました。その後、



南禅寺での食事だったので、昼食にあり付いたのは何と三時すぎになってしまいました。

昼食後は更に過酷な試練が待ち受けていました。南禅寺から約一時間、哲学の道を白川通りまでのAコース、吉田山を越えて本部時計台までのBコースを歩くと言う事になりました。老人、ご婦人も含め全員完歩はしたものの、さすがぐったりしているように見受けられました。

その為か、帰りのバスの中は話し声も少なく、走行音だけが聞こえている状態でした。今年の秋の例会は「本当にお疲れさまでした。」の一言に尽きる一日でした。

林 靖人 (昭42年卒) 記

東京支部

すでに掲載いたしましたでしたが改めて東京支部のホームページをお知らせいたします。

<http://www.rakuyukai.org/>

事務局だより

お願い

名簿情報の精度向上のために、各卒業年次でその学年の卒業生のご住所、ご職業などの最新情報を一括して下さっている方がおられましたら、是非その情報を郵便または添付メールにて洛友会本部

にお送りいただけないでしょうか。ご住所等の修正はご本人からのご連絡だけに頼っておりますので、お届けのない方の住所の更新ができない状況です。ご協力のほどお願いいたします。

あて先: 洛友会本部事務局
〒606-8202

京都市左京区田中大堰町49
(財)応用科学研究所内

TEL: 0757013210 FAX: 0757011217
E-mail: e-rakuyun@seanplala.or.jp

お知らせ

目下京都市美術館で開催されている「日展」に「N先生像」として長尾先生の肖像画が展示されています。(1月18日まで) その後名古屋(1月26日~2月20日)、大阪(2月26日~3月21日)、福岡(3月26日~4月10日)更に富山、長崎、福井、山形と巡回予定です。興味のある方は是非ご覧下さい。

(東京支部中田良知氏より情報いただきました。)



「N先生像」(辰巳 寛画伯)

編集後記

新年お目出度うございます。皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

昨年12月初めより平年を上回る温暖な日が続き、既に暖冬予測が出ています。一方昨秋より円高に加え原油価格の高騰傾向が今年の景気の先行きに気掛りなことですが、平穏な一年でありますようお願いしております。

本年は「巻頭言」、「本部だより」に述べられている洛友会の活性化への取組みの最初の一年となり、皆様から寄せられたアンケート結果を早期に具現するよう頑張る所存です。

松本博 記

訃報

講昭6	稲垣 敬聚	12・5・7
講昭7	清水 由良	11・2・22
昭13	平野 進	16・10・27
昭20	清水幸四郎	16・11・14
昭22	馬原 康僑	16・8・16
昭23	竹村 信宏	16・9・22
昭25	戸川 一義	16・5・16
昭41	藤原 透	16・7・31
昭54	乾 俊一	16・10・28

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。